

コロナにまけない 距離は取っても繋がりはつよく

一時は沈静化するかに見えた新型コロナウイルス感染症でしたが、7月中旬以降、再び市内でも感染者が報告されるようになりました。

市内では、コロナ禍にあっても、地域のつながりを途切れさせないよう、新しい生活様式を念頭に工夫し、様々な取り組みを実践しています。



どんな状況でも前向きに

緊急事態宣言解除後、見守り訪問活動等、少しずつ地域福祉活動が再開されてきました。しかし、感染拡大がおさまらず、大人数が集まる行事等は次々と中止が決定されています。

そんな中、複数の校区では、支え合い推進会議を再開し、今後の地域福祉活動についての話し合いが行われています。

ある校区では、コロナの状況下で、「なにもできない」ではなく、「どんな工夫をすればできるのか」をみんなと一緒に考えたいと、意見を出し合いました。

「時間をずらして開催する」「行事の内容自体を変えてみる」「ネットやSNS等を使って情報を共有する」「パソコンなど使えない人には校区でできる人が教える」などアイデアがたくさん出ており、新しい形の地域福祉活動が始まろうとしています。

市社会福祉協議会では、今後もこのような校区の取り組みを紹介していきたいと思っています。

楽しく感染予防を ～手洗い小唄～

サロンレクリエーションサポーターの皆さんが、新型コロナウイルス感染予防のために、「手洗い小唄」を作成されました。サポーターの一人である飛永さんに話を伺いました。

コロナ禍以前は、市内のサロン等でレクリエーションや脳トレ、健康体操等を行い、参加者の皆さんと交流していました。しかし現在は、サロン等へ出向いての活動が難しいため、動画を作成し、インターネットを通して、皆さんに感染症予防に活用してもらいたいと考えました。

また、この動画の作成を通して、私達自身もコロナで何もできないではなく、こんな時だからこそ、できることを考え、前向きにならないといけないと思う良いきっかけになりました。皆さんも楽しく感染症を予防しましょう。



サロンサポーターの皆さん(一番左が飛永さん)

詳しくは、市社会福祉協議会フェイスブックをご覧ください。



布マスクバンクへのご協力ありがとうございました。

市社会福祉協議会では、コロナ禍におけるマスク不足解消、布マスクの有効活用を目的として5月18日より布マスクバンクを始め、これまでに、約1400枚の布マスク等を皆さまからいただきました。

いただいた布マスクは、市内の困窮者支援団体や市母子寡婦福祉会、地域活動を行っている団体、福祉施設等に提供しました。

ご協力ありがとうございました。



市母子寡婦福祉会藤田会長(左)にお渡ししているところ

お米で支援を

久留米市農業協同組合様からお米の寄付をいただきました

新型コロナウイルスの影響で、明日食べるものもない等、多くの相談が寄せられています。

そのような中、久留米市農業協同組合様より、地域貢献の一環として生活困窮者世帯を支援したいと、米600kgの寄付をいただきました。いただいたお米は、市内で食糧支援を行っているボランティア団体等に提供しました。温かいご支援、ありがとうございました。

お米の寄付を募集しています

市社会福祉協議会ボランティアセンターでは、お米の寄付を募り、ボランティア団体を通じて、生活困窮世帯に提供いたします。皆さまのご支援・ご協力をお願いします。



JAくるめ前にて森光代表理事組合長(右)と

寄付の方法

市社会福祉協議会ボランティアセンターへ**事前にご連絡のうえ**、お持ちください。(量が多い場合、持参できない場合はご相談ください)

寄付の受付期間

10月1日～11月30日

寄付の受付・問い合わせ

市社会福祉協議会ボランティアセンター

〒830-0027 久留米市長門石1丁目1番34号

TEL 0942・34・3035 FAX 0942・34・3090